

第7回学術大会特別講演

咬合面形態とその役割 — 食事の際に粉碎された食片がなぜ口腔外にこぼれないのでしょうか —

河野 正司

明倫短期大学 歯科技工士学科

上下の歯が噛み合った咬頭嵌合位の歯列を頬側面から見ると、上顎の頬側咬頭内斜面が下顎の頬側咬頭を被蓋するようになっている。

食物を口腔内に摂取してから嚥下までの様相を観察すると、一側で数回噛むと咀嚼側を変えて反対側の歯列で噛み、また咀嚼側を乗り換えながら咀嚼が進行していく。

また、歯が噛み合う上下の咬合面間の間隙を第一大臼歯で観察すると、咬頭嵌合位では咬合面全体が緊密に接触しているが、咬合面に食物を取り込む側方位においては、上下顎咬合面の頬側咬頭と舌側咬頭に囲まれた「圧搾空間」と呼ばれる空間が形成されている。

この空間に取り込まれた食物が、咬頭嵌合位までの運動により粉碎・圧搾されて、咬合面の近心舌側

から固有口腔に押し出されていくことがわかってきた。

このように、側方位から咬頭嵌合位へ噛み込み、上下顎咬合面の圧搾空間がつぶされることで、食物は粉碎されるとともに、食片が自動的に近心舌側から口腔内の舌の上に移送されるようになっている。

上記の3項が同時に働くことにより、食事の際に粉碎された食片が口腔外にこぼれないで、食塊形成されて、滑らかに嚥下へと移行していくのである。

この3つの要件のうち1つでも欠けてくると、粉碎食物が口腔外に飛び出したり、食物が口腔前庭に貯留して嚥下できない状態となり、歯周病や齲蝕、さらには口臭の原因となるばかりでなく、高齢者にとっては誤嚥を招きかねない危険な状態となってくる。